

16. 各学科の教育方針および求める人物像

芸術学部

デザイン芸術学科

○教育方針

デザイン芸術学科は、デザインとアートの2領域からなる学科で、デザイン、美術工芸の諸分野を幅広く融合した総合的な芸術教育研究を行うことを目的としています。

今日、デザイナーやアーティストには、単一分野の専門スキルの発揮に留まらず、人々の生活や社会の様々な問題に対してデザインとアートを融合した総合的な提案ができることが求められています。

このような状況を踏まえ、デザイン領域にはイラストレーション、ビジュアルデザイン、生活プロダクト、ファッション・テキスタイルの4分野と、アート領域には造形芸術（日本画、油彩画、版画、彫刻）、工芸（ガラス工芸、陶芸）、現代アートの3分野を配し、幅広い要求に対応できる体制になっています。

さらに、デザインとアートを融合した総合芸術も学ぶことができます。

○学科の求める人物像

デザイン芸術学科では、デザインやアートの個別分野の専門家であるだけでなく、総合的な見地から社会、産業、生活のニーズに対して新たな価値を創出できる人材の養成を目標とし、以下の人を求めています。

- ・感性が豊かで好奇心がある人。
- ・柔軟な発想ができる人。
- ・創造的な表現をすることに興味がある人。
- ・周囲の人々や社会が求めていることに敏感で、より良い解決策を提案したい人。
- ・芸術の歴史や文化について関心がある人。

○学んできてほしいこと

デザイン、美術工芸などと同時に、国語、数学、理科、社会、英語など高校での主要科目も十分に学習してきてください。また、デザイン、美術工芸など多くの作品に積極的に触れる事を心がけてください。

メディア映像学科

○教育方針

メディア映像学科には、マンガ、CGアニメ、コミックイラスト、ゲーム・Webデザイン、動画の5つのコースがあり、進化するメディアに対応した質の高いコンテンツを創造するクリエイターとともに、メディア技術やコンテンツビジネスを理解し、総合的に判断してメディア環境をプロデュースする人材の育成を目指します。

マンガコースでは、アナログ／デジタルの作画技法からストーリーづくり、演出などのマンガ制作技術を基礎から学びます。Gペンと紙での伝統的なアナログ技法やデジタルデバイスならではのマンガ表現技法を駆使し、人々に感動を与えられるマンガ家を目指します。

CGアニメコースでは、最先端の2D/3DCG技術とクラシカルな伝統技法を網羅的に身に付けてハイブリッドなアニメーションづくりを学びます。またテクノロジーとアニメを融合したインタラクティブ作品など新しい表現も学び、新しい時代にマッチした表現者を目指します。

コミックイラストコースでは、芸術学部ならではの高いデッサン力と造形力を養い、加えて最新の設備環境でCG制作技術やフィギュアをはじめとする立体造形を学びます。小説の表紙やゲーム広告などキャラクター開発を必要とするさまざまな分野で活躍できるクリエイターの育成を目指します。

ゲーム・Webデザインコースでは、ゲームやWeb、モバイルアプリケーションなどの企画・制作から、3DCG、Web標準技術やアプリ制作技術までと、幅広く今日のコンテンツを支えるしぐみを学びます。直感的にわかりやすく、次代のトレンドを押さえたコンテンツクリエイターや新たなメディア環境をプロデュースできる人材の育成を目指します。

動画コースでは、映画やコマーシャル、Web動画などのデジタル映像の制作技法から、クリエイターの基本となる「話す」「聞く」「考える」姿勢と技術まで幅広く学習し、実践的な映像制作技術と優れたコミュニケーション能力をもつクリエイターを目指します。

○学科の求める人物像

メディア映像学科が求める学生は、本学科の教育方針に共感し、色々なことに興味をもって積極的に新しい映像コンテンツのあり方、新しいコミュニケーションの可能性について探求する学習意欲の高い方です。

分析力と想像力のバランスのとれた人材だけでなく、何かに突出した才能を持つ人材も求めています。

○学んでほしいこと

マンガ、アニメーション、イラスト、ゲーム、Web、動画、デザイン、美術、工芸などと同時に、国語、数学、理科、社会、英語など高校での主要科目も十分に学習してきてください。また、美術館等で開催される展覧会や、芸術祭や映画祭などのイベントにでかけ、できるだけ多くの作品を体験してきてください。

生命科学部

生命科学科

○教育方針

生命科学科には「生命化学コース」、「臨床工学コース」、「バイオコース」があります。「生命化学コース」では、医薬品合成、機能性素材の開発、環境科学など環境保全と工学の両立を目指すグリーンケミストリーの専門分野を学びます。「臨床工学コース」では、病院などの医療施設で重要視されているチーム医療の一員として活躍する臨床工学技士の養成（国家資格）カリキュラムを置き、4年間で臨床工学技士国家試験の受験資格が取れる教育を行います。「バイオコース」では、香りに関する事柄を化学的、生物学的な面から学んだり、海の生物資源を持続的に存続・利用するための専門科目を学習したり、さらには、健康食品や機能性食品など食品の持つ機能・効能を学びます。このように生命科学科では、きれいな環境を継続的に維持し、人間の生活に密着したライフサイエンスの分野で活躍できる人材の養成を行います。

またリメディアル教育などのバックアップ体制も充実しています。

○学科の求める人物像

21世紀に入り人類は生命の複雑な現象を分子レベルで解明できる手段を手に入れようとしています。これにより21世紀はバイオテクノロジーや遺伝子ビジネスの時代だといわれています。また、人間の生活レベルも向上し、環境やエネルギーも含めた継続的維持も重要になってきています。生命科学科では、ライフサイエンスに興味があり、常に自己開発を志す人物を求めています。

ライフサイエンスの分野で自己開発を行うには、旺盛な好奇心と粘り強いチャレンジ精神が必要です。例えば、高校で生物しか履修していなくても、生物系科目の理解を広げるために化学に興味を持ち、挑戦できる人を求めています。同様に、物理、化学を履修して生物を勉強していなくても、大学で生物に触れてみようという意欲のある人物を求めています。また、工業高校で数学、物理は習ったが、化学、生物は全く勉強していなくても、大学のカリキュラムでは化学も生物も挑戦してやるという意思の強い人物を求めています。

○学んできてほしいこと

高校の理科系教科の基礎学力は、本学カリキュラムの基として必要不可欠な要素になります。基本は生物と化学ですが、臨床工学コースで所定のカリキュラムを習得していく際には、物理の基礎学力があれば断然有利になります。工業高校出身者には数学、物理あるいは化学に対して距離感を持っていない人が多いと思いますが、生物のカリキュラムをこなすために粘り強いチャレンジ精神が要求されます。生命化学コース、バイオコースでは高校で勉強した理科教科を基にさらに専門性を高める意欲や他分野に挑戦する勇気を持っている人であれば大丈夫です。

生命医科学科

○教育方針

医師は検査情報によって、患者様の健康度、病気の有無、進行度および治療効果などを判断し、患者様の Quality of life（生活の質）を向上させるために最善の医療を行います。この医療の元になる検査情報は「正確」、「迅速」、「プラス α 」があってこそ医療に貢献できます。そのため、専門の養成施設で臨床検査という学問を学び、血液、尿および細胞から正確な情報を出す力、人体から正確な情報を出す力を身につける必要があります。生命医科学科では、「臨床検査技師」および「細胞検査士」として、“正確かつ生きた検査情報”を提供できる人材を育成します。

本学科は学生に対し、臨床検査の基本となる知識・技術および医学・医療の知識を体系的かつ段階的に講義・実習することで、確かな基礎力と即戦力を有する臨床検査技師を養成します。また、従来の分野に加えて新しい分野である細胞病理学、神経科学、検査開発学、検査診断学などの研究分野の知見を示すことによって、高い知的好奇心を培う教育を行います。4年生次には臨床検査技師国家試験対策および最新医学に基づく卒業研修を並行して行い、確固たる臨床検査力、問題解決力を備える教育を行います。

本学科の特徴として、

①臨床検査技師と同時に細胞検査士の資格を在学中に取得できるダブル・ライセンス制度：ダブル・ライセンスを取得するには厳しい試験勉強を乗り越える必要があるため、4年生次には専門の教員による徹底した教育を行います。

②臨床検査技師の資格を有し、実務経験のある教員による教育：病院や臨床現場で実際に検査業務や管理者としての実務経験を生かした授業であるため、初めて授業を受ける学生でもわかりやすく、また、就職や医療に関して相談にのることができます。

③各学年の相談役として教員がチューター：学業や学生生活などの相談に対して、各学年のチューターが親身になって相談にのり、全員が資格と学士の取得を達成するために助言します。

以上から、生命医科学科が輩出する人材は、倫理観・資格・臨床検査力の三拍子揃った医療人です。

○学科の求める人材像

コンプライアンスを順守し、努力家でコミュニケーション力の豊かな人材が、医療現場で必要とされるため、当学科においても同様の人材を求めています。さらに、当学科の4年間は、臨床検査技師や細胞検査士の資格試験に合格するという明確な目標があり、勉強する時間は多くなりますが、毎日の生活を楽しく有意義に過ごせる計画性のある人材を求めています。

○学んでほしいこと

生物、化学、英語に関する基礎的知識は臨床検査学を学ぶ上で必要となりますが、中でも生物、化学は重要科目となります。

動物生命科学科

○教育方針

人と動物の関係は近年大きく変貌を遂げつつあります。とくに両者の絆（ヒューマン・アニマル・ボンド）に対する意識が高まっています。動物生命科学科では人と動物との間に横たわる様々な問題を幅広く教育することに主眼を置きます。

1年次では、動物機能形態学など動物を学ぶ上での基礎となるものを始め、社会と倫理、動物福祉論、生命関連法規などを通じて高い倫理観を形成します。また病院情報管理学、生物統計学といった動物医療、動物研究に関わる科目についても学習します。さらに動物飼養管理学などの専門科目により我々と動物が共存する社会についての理解を深めることを学ぶこととなります。

2年次から3年次にかけては本格的に専門科目を取り上げます。専門基礎科目に加えて、動物病理学、動物臨床検査学、動物薬理学などの病気への理解と対処の方法や動物栄養学、動物臨床栄養学などにより動物を健康に飼うための知識や技術についても学習することにしていきます。さらに動物行動解析、動物行動心理学、人間動物関係学などを学ぶことで動物の問題行動や異常行動への対処を身につけられるようにします。この他、数多くの専門科目を学びます。

3・4年次では実践に重点を置き、動物臨床看護学各論、動物臨床看護技術学実習などに加え、実験動物学や動物発生工学演習なども学ぶことで幅広い動物関連の専門技術者を育てます。

このように動物生命科学科では、動物看護師にとどまらず、生命科学の基礎技術者などのライフサイエンス分野で活躍できる人材の養成を目指します。

○学科の求める人物像

- ・動物と人間の関わりの領域を中心とした分野で活躍したいという意欲のある人
- ・特に動物看護師、実験動物技術者として活躍したいという意欲のある人
- ・動物に思いやりを持って接することができる人
- ・人と適切にコミュニケーションをとることができ、人にも思いやりをもって接することができる人

○学んできてほしいこと

高校卒業程度の基礎的な学力を有していることが必要ですので、十分学習してきてください。生物、化学、物理、数学など自然科学に関する教科については、特に十分な基礎知識を修得してください。語学に関しては辞書があれば長文の英語を読める程度の英語力を有することが必要です。

健康科学科

○教育方針

健康科学科では、保健科学と運動科学の両面から人間の健康をとらえることができ、人間を取り巻く環境との関わりの中で21世紀の健康生活に貢献できる人材の養成を目標としています。

健康科学科では、以下の3コースを設けて教育を行っています。

「健康・運動指導者コース」では、スポーツ心理学、スポーツ栄養学、運動生理学、健康運動のプログラミングと実践、トレーニング理論と実践等の健康科学分野（保健理論）と運動指導の科学的側面（指導方法）を中心に学習し、主として健康運動指導士・健康運動実践指導者の資格取得、保健・保健体育教員免許（中学校教諭一種、高等学校教諭一種免許状）の取得を目指します。

「アスレティックトレーナーコース」では、スポーツ医学、バイオメカニクス、スポーツコンディショニング、スポーツリハビリテーション等のアスレティックトレーナー関連の科目を中心に学習し、主としてアスレティックトレーナーの資格取得を目指します。

「救急救命士コース」では、救急救命士国家試験のガイドラインに沿った資格関係の科目を中心に学習し、救急救命士の資格取得を目指します。

健康科学科ではこのようなカリキュラム構成のもとで、健康運動指導士・健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー、JATI（トレーニング指導者）、救急救命士、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、健康管理士一般指導員等の資格取得、保健・保健体育教員免許取得に向けた教育に力を入れています。

○学科の求める人物像

健康科学科では、保健科学と運動科学の分野に興味・関心を持ち、卒業後はスポーツ、健康運動、トレーナー、救急救命（消防署等）、健康管理、環境保健、教育等の分野で社会に貢献したいと考えている人を求めています。

将来は、国家資格等の資格取得を目指しますので、目標に向かって積極的にチャレンジする人を歓迎します。

○学んできてほしいこと

1. 国語・英語等基礎的な学力
2. 生物などの自然科学および保健体育の基礎学力
3. 基本的な礼儀・作法・マナー
4. クラブ活動等課外活動にも積極的に取り組んできてほしい

危機管理学部

危機管理学科

○教育方針

近年の社会では科学技術の発展と国際化に比例して企業倒産、経済危機、工場事故・災害、企業不祥事、金融詐欺など、企業活動や社会生活を脅かす事態が多発するようになって来ています。このような状況を打破するためには、“想定外”の危機的状況を未然に防止し、万が一発生した場合にはそれに的確に対処し、被害を最小限におさえる必要があります。

危機管理学科では、危機管理の素養（基礎知識）を身につけ、その上で経営・経済学の専門知識を学ぶことで、地域社会のかかえている課題の解決に貢献でき、将来、就職した企業や社会の発展に寄与できる人材の養成を目指します。

危機管理の素養（基礎知識）を身につける科目として、1年次（危機管理学概論、危機管理と社会制度、情報セキュリティなど）、2年次（リスクマネジメントの基礎、リスクコミュニケーション、危機管理政策論、災害対策概論など）、3年次（事業継続計画（BCP）、コーポレート・ガバナンス論など）があります。

経済・経営学の専門知識を学ぶ科目として、1年次（経済学概論、経営学概論、経済危機論、経営リーダーシップ論など）、2年次（マクロ経済学、ミクロ経済学、地域政策論、企業経営論など）、3年次（経営リスク認知論、経営リスク評価論、金融論、財政学、簿記論など）があります。

○学科の求める人物像

- ・危機管理の知識や総合的な人間力を身につけ、社会人として活躍したい人
- ・危機管理分野や経済・経営学分野で役立つ専門的な知識や技能を身につけ、一般企業、官公庁等で活躍したい人
- ・観光分野や国際関係に興味を持ち、旅行会社、マスコミなどで活躍したい人
- ・危機管理の知識を活かし、警察官・消防士等として活躍したい人

○学んできてほしいこと

高等学校卒業程度の基礎的な学力を有することと、積極的な学習態度を有することが求められます。その上で、国語、現代社会、政治経済、地理・歴史、商業などの中から、得意科目があることが望まれます。さらに、基本的な礼儀・作法・マナーを身につけてきてください。